

# 東北地方 1か月予報

(6月29日から7月28日までの天候見通し)

平成14年6月28日  
仙台管区気象台発表

## <予想される向こう1か月の天候>

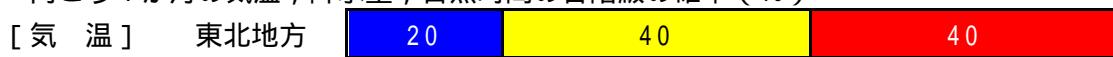
向こう1か月の可能性の大きな天候は以下のとあります。

梅雨前線やオホーツク海高気圧の影響で、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう1か月の気温は平年並か高く、降水量と日照時間は平年並の見込みです。

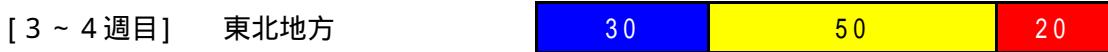
週別の気温は、1週目は平年並か高く、2週目は高い、3~4週目は平年並の見込みです。

## <向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



 低い(少ない)  平年並  高い(多い)

## <気温経過の各階級の確率(%)>



 低い  平年並  高い

## <予報の対象期間>

1か月 : 6月29日(土) ~ 7月28日(日)

1週目 : 6月29日(土) ~ 7月5日(金)

2週目 : 7月6日(土) ~ 7月12日(金)

3~4週目 : 7月13日(土) ~ 7月26日(金)

## <次回発表予定等>

1か月予報:毎週金曜日14時30分 次回は7月5日

3か月予報:7月22日(月)14時00分

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温, 降水量, 日照時間と1週目, 2週目, 3~4週目の平均気温)

	気温(℃)	降水量(mm)	日照時間(時間)	気温(℃)		
				1週目	2週目	3~4週目
大船渡	20.6	171.3	140.9	18.9	19.9	21.4
新庄	21.9	185.6	143.5	20.3	21.2	22.7
若松	23.0	162.7	155.8	21.4	22.4	23.8
深浦	20.9	139.6	171.3	19.2	20.1	21.8
青森	20.6	96.4	170.7	18.8	19.9	21.6
むつ	19.1	118.5	145.2	17.3	18.4	20.0
八戸	19.7	112.5	160.1	17.8	18.9	20.7
秋田	22.3	176.4	163.3	20.6	21.5	23.2
盛岡	21.3	160.8	136.6	19.7	20.7	22.2
宮古	19.5	138.3	139.0	17.7	18.8	20.4
酒田	22.7	184.2	168.2	21.0	21.9	23.6
山形	22.8	143.9	144.2	21.1	22.1	23.6
仙台	21.6	164.1	118.2	19.8	20.9	22.5
石巻	20.9	134.1	137.6	19.2	20.3	21.8
福島	23.1	148.9	123.5	21.3	22.4	23.9
白河	21.6	190.7	120.1	19.9	21.0	22.4
小名浜	21.3	131.6	140.3	19.8	20.7	22.1

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971~2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差(℃)	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.2~+0.5	86~113	92~108
東北日本海側	-0.3~+0.5	82~117	89~107
東北太平洋側	-0.2~+0.6	83~113	92~111

(3) この予報期間の1週目、2週目、3~4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3~4週目
東北地方	-0.7~+0.6	-0.8~+0.6	-0.6~+0.8
東北日本海側	-0.6~+0.6	-0.6~+0.5	-0.5~+0.7
東北太平洋側	-0.9~+0.6	-0.9~+0.8	-0.5~+0.9

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温・降水量等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971~2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるよう決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 確率は、予報した階級が実際に起こる割合(出現率)を表しています。たとえば、確率60%の予報10例では、そのうちの6回で予報した階級が実際に起こり、4回で起こらないことが想定されます。また、統計的に有意性の高い予測資料が得られた場合には気候的出現率(各階級ともに33%)から大きく隔たった確率(10%や60%、70%など)を付けられますが、有意性が低い場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

# 東北地方 1か月予報解説資料

平成14年6月28日 仙台管区気象台

## 1. 可能性の大きな天候の特徴

向こう1か月(6月29日~7月28日) :

梅雨前線やオホーツク海高気圧の影響で、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

平均気温は平年並か高いでしょう。

1週目(6月29日~7月5日) :

梅雨前線の影響で曇りや雨の日が多いでしょう。

平均気温は平年並か高いでしょう。

2週目(7月6日~7月12日) :

梅雨前線や低気圧の影響で、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

平均気温は高いでしょう。

3~4週目(7月13日~7月26日) :

梅雨前線やオホーツク海高気圧の影響で、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

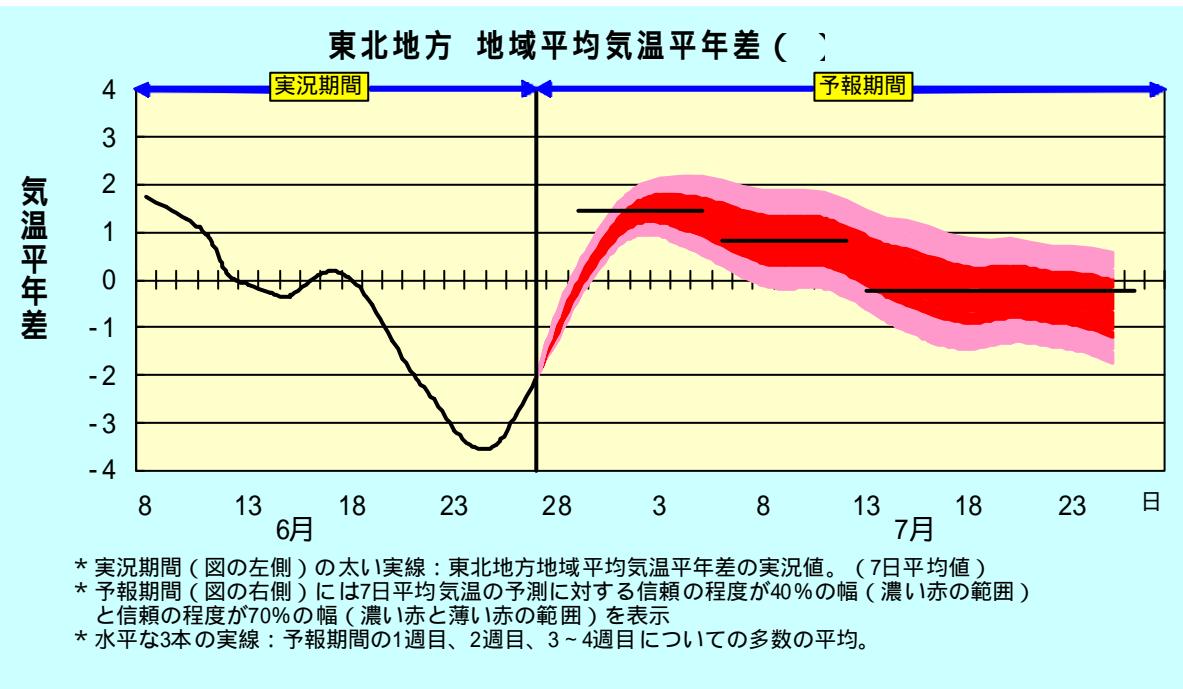
平年の晴れ日数

	向こう28日間	1週目	2週目	3~4週目
東北日本海側	12.5日	2.9日	2.6日	7.0日
東北太平洋側	10.7日	2.5日	2.3日	5.9日

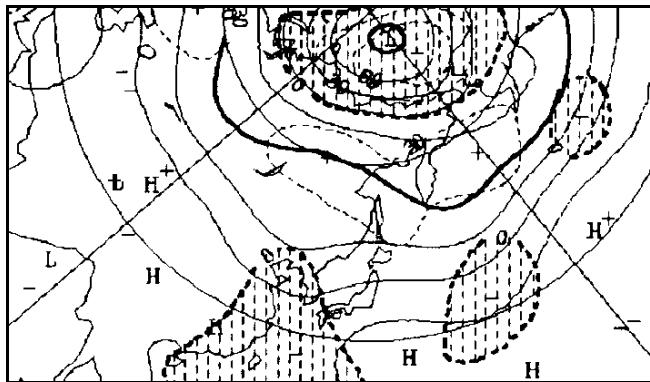
## 2. 東北地方の地域平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別の気温は、1週目と2週目は「高い」、3~4週目は「平年並」を予測している。予報は、週間予報資料から1週目を「平年並か高い」とする他は数値予報どおりとする。

なお、数値予報の信頼度は大きい。



### 3. 循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）

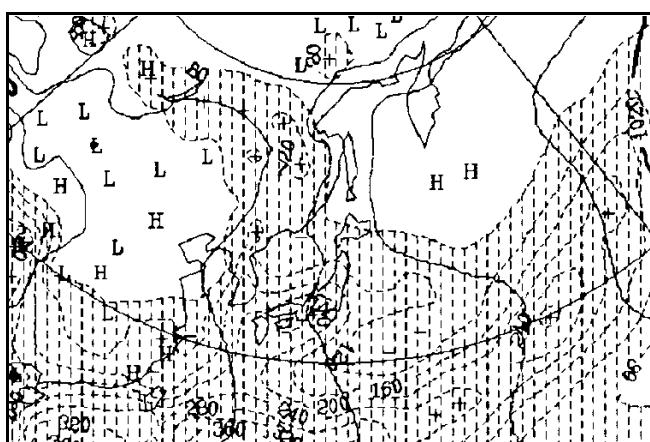


月平均の 500hPa 高度・偏差  
等高度線 : 60m 每、偏差 : 30m 每、陰影部 : 負偏差

#### 500hPa 高度・偏差

月平均で見ると、太平洋高気圧が日本の南に張り出し、日本付近は正偏差となっている。朝鮮半島付近には気圧の谷があって、日本の西の東シナ海から台湾にかけては負偏差が広がる。

週別（図略）では、1週目は月平均と同様に太平洋高気圧が日本の南に張り出すが、2週目には弱まり、日本の南海上に負偏差が広がる。3~4週目は再び太平洋高気圧が日本の南に張り出す。



月平均の地上気圧と降水量  
等圧線 : 4hPa 每、降水量 : 40mm 每、陰影部 : 80mm 以上

#### 地上気圧と降水量

月平均で見ると、日本海に梅雨前線に対応する等圧線のくびれがみられ、東日本以西にまとまった降水域が予想される。また、カムチャツカ半島の南にはオホーツク海高気圧があって、北日本に張り出す。

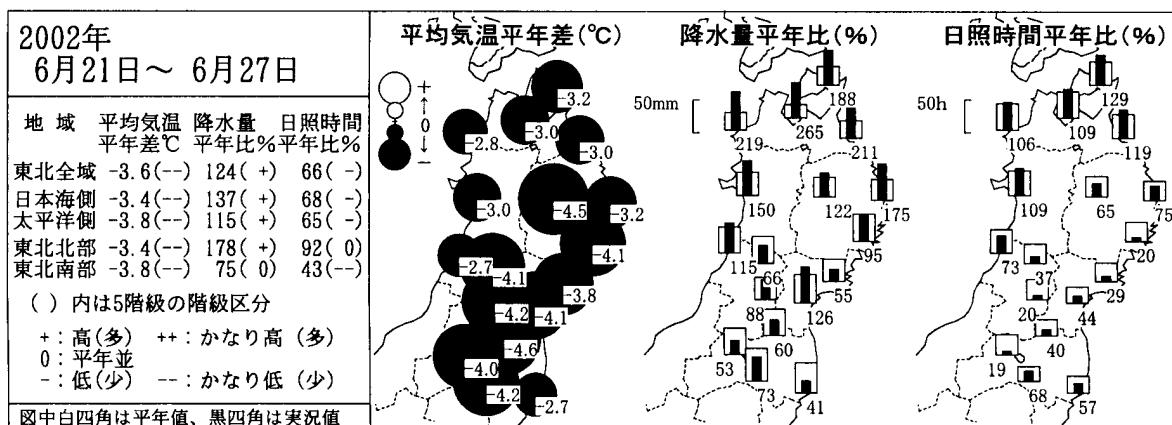
週別（図略）では、1週目は太平洋高気圧の日本付近への張り出しが強く、まとまった降水域が東日本以西に広がるが、2週目には張り出し弱まる。3~4週目は、カムチャツカ半島の南のオホーツク海高気圧が顕著となり、北日本に張り出す。まとまった降水域は東日本以西。

### 4. 最近1週間（6月21日～6月27日）の天候の経過

この期間、東北南部では低気圧や梅雨前線の影響で曇りや雨の日が多くた。東北北部では、前半低気圧の影響で曇りや雨となつたが、後半は高気圧に覆われ晴れた。

日本付近に強い寒気が南下したため東北地方は低温となり、各地で低温注意報や天候情報を発表した。

平均気温は、東北地方で平年差-3.6℃とかなり低かった。降水量は、東北北部で平年比178%と多く、東北南部で平年比75%と平年並だった。日照時間は、東北北部で平年比92%と平年並だったが、東北南部で平年比43%とかなり少なかった。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）